

## 記事内容

- ☆2022地域活性化フォーラム
- ☆ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」/  
埼玉労働局に要請
- ☆女性のためのSTEPUPセミナー(初級)/  
女性のための連合全国一斉集中労働相談ホットライン
- ☆平和行動in沖縄
- ☆平和行動in沖縄/既卒3年以内就職面接会
- ☆8月の行動予定表/埼玉県生活協同組合連合会
- ☆あけぼのビル

## 公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう!

## 2022地域活性化フォーラムを開催

7月6日(水)ZOOMウェビナーを使用して、埼玉県経営者協会と共催の「2022地域活性化フォーラム」を開催しました。

構成組織や地域協議会と埼玉県経営者協会の加盟企業、埼玉県の方にご参加いただき、連合埼玉からは41名に参加いただきました。



経営者協会 原会長

冒頭、埼玉県経営者協会の原会長から「新型コロナウイルスの影響に加え、エネルギー価格の高騰や部品調達の混乱など企業経営には厳しい環境が続いているが、今後の企業経営には人への投資が重要であり、労使一体となった賃金改善や働き方改革を進める必要がある」と挨拶がありました。



井上教授

続いて、第1部として、早稲田大学商学術院教授井上 達彦氏から「世界最速のビジネスモデル」と題して講演いただきました。

講演の中では、世界最多ダウンロードのアプリが、中国のスタートアップ企業に変わったことが紹介されたことやその企業の起業から現在に至る過程を説明いただきました。その中で、成功のきっかけとなった3つのステップがあることを三択形式の質問を交えながらわかりやすく説明いただきました。

続いて、2部では事例報告が2件おこなわれました。1件目は、野村不動産ソリューションズ(株)人事部長 瀧上 直樹氏から「当社の働き方改革の取り組みについ



瀧上部長

て」として、主に企業内のフレックス勤務制度導入についての経過や課題などが紹介されました。長時間労働が常態化している中で、意識改革などに取り組み

制度導入が実現できたことやお客様を接客する店舗でのフレックス勤務が進んでいないことなど説明いただきました。



川口委員長

2件目は、OKIソフトウェアユニオン中央執行委員長川口 明紀氏から、「オンラインを活用した職場内コミュニケーションの活性化」として、新型コロナウイルス感染症の影響により、職

場内でのテレワークの普及や飲食の制限により減ってしまったコミュニケーションをオンラインツールを活用して労使一体なった全社(500人規模)忘年会を開催した事例やその際の組合員の反応や受け止めなどのアンケートも紹介いただきました。



近藤会長

最後に、連合埼玉近藤会長から「地域活性化フォーラムでは、様々な成功事例を紹介しているが、各企業・団体知恵を出し合って取り組んでいることがわかる。こうした事例が

他の企業・団体での取り組みの一助になればと思う」と閉会の挨拶がありました。

## ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」を開催!

～2022年度「男女平等月間」の取り組み～



6月6日(月)ときわ会館にて、2022年度「男女平等月間」の取り組みとして、「ジェンダー平等・多様性推進「トップセミナー」をWEBとの併用で開催し、総勢26名の皆様に受講していただきました。

今回のセミナー第1部では、弁護士 坂東 利国氏と八幡 優里氏をお招きし、「辯護士から学ぶ、法改正とジェンダー平等(ハラスメントや育休等)」というテーマで講演をいただきました。講演内容としては、坂東氏より

- 2021年の育児・介護休業法改正の趣旨
- 2022年4月に施行される改正法の概要(有期雇用労働者の育児・介護休業取得要件の緩和等)
- 2022年10月に施行される改正法の概要(育児休業の分割取得等)

などについて講演していただき、八幡氏からは

- ハラスメントに関する法改正
  - 職場におけるセクシュアルハラスメント
  - 職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント
- などについて講演していただき、受講者からも高評価をいただきました。

また、第2部では、「ジェンダー平等・多様性推進に向けた取り組みについて」というテーマで、濱田 浩氏(JAM埼玉)・太田 真由美氏(UAゼンセン)・山崎 将義氏(電力総連)より、各産別における事例報告をしていただき、その後、受講者との意見交換をおこないました。



ジェンダー平等・多様性推進委員会を代表して挨拶する 金谷委員長



講演をいただいた坂東氏(左)・八幡氏(右)



事例報告をしていただいた 太田氏



事例報告をしていただいた 山崎氏

## 埼玉労働局に対して「男女平等参画社会」実現をめざした要請を実施!

連合埼玉は、男女が均等な機会と待遇で、仕事と生活の役割と責任を分かち合いながら働き続けることのできる「男女平等参画社会」実現をめざして取り組んでいます。

そのような中、6月1日(水)に埼玉労働局に対して、「男女平等参画社会」実現をめざした要請をおこないました。当日は、ジェンダー平等・多様性推進委員会 金谷委員長(連合埼玉副会長)から、埼玉労働局雇用環境・均等室 荒井室長へ要請書を手渡し、その後、意見交換をおこないました。

具体的な要請項目は、以下のとおりとなります。

1. 雇用創出と生活困窮者への人道支援

2. 失業等女性の雇用に関する問題の適切な把握と可視化
3. 仕事と育児・介護、不妊治療等が両立できる就業環境の整備
4. ハラスメント対策、女性活躍推進



要請書を手渡す金谷委員長



荒井室長(左)・金谷委員長(右)

## 女性のためのSTEP UPセミナー初級編を開催！

～ 女性が労働組合で輝くために ～



女性委員会では、6月15日(水)に「女性のためのSTEP UPセミナー(初級編)」をときわ会館にて開催し、構成組織からの参加者および幹事・事務局をあわせて、27名の方に参加していただきました。

冒頭、女性委員会を代表し藤井委員長から、「新型コロナウイルスの影響により、職場環境に変化が求められる中、構成組織を超えた横のつながりをつくり、女性の積極的な組合活動の参加をめざすことが必要である」との挨拶がされました。

その後、講演1では、連合本部ジェンダー平等・多様性推進局 遠藤 和佳子氏より、連合が掲げる目標を切り口として、はたらく女性を取り巻く環境の情勢や男女平等参画を実現するために女性が組合活動に参加することの意味合いや影響などについて講演をいた

だきました。

また、講演2では、一般社団法人 日本産業カウンセラー協会北関東支部 シニア産業カウンセラー・公認心理師 大久保 順一氏より、「コミュニケーションスキルを学ぶ」というテーマで講演をいただきました。講演では、サイコロトークの自己紹介からはじまったグループワークをつうじて、話を「聴く」心構えや姿勢、表現の仕方を変えることで身に付くポジティブ思考などについて、楽しく学ぶことができました。

半日という短い時間ではありましたが、参加者のアンケートからも様々なご提案や感想をいただきました。今後は、中級編、上級編のセミナーを予定していますので、多くの方々のご参加をお待ちしているとともに、参加者のSTEP UPに繋げられるよう取り組んでまいります。



講演をいただいた 遠藤 和佳子氏



講演をいただいた 大久保 順一氏

## 女性のための連合全国一斉集中労働相談ホットライン

～ 職場で悩むあなたを応援(サポート)します ～

6月7日(火)～8日(水)にかけて、「働く上で女性が抱える悩みや不安、職場の問題に関する労働相談への対応をおこなうとともに、相談をつうじて組合結成や処遇改善の取り組みに努める。さらに、寄せられた相談をもとに男女平等参画社会の実現に向けて政策・制度への反映をはかる」ことを目的とした女性のための連合全国一斉集中労働相談ホットラインが実施されました。

当日の相談件数は、7日(火)19件、8日(水)12件、合計31件で、その内の22件が女性からの相談でした。また、相談内容ではパワハラ・嫌がらせ関係の相談が最も多く、差別などのパワハラ・嫌がらせが大幅に増加、労働契約・安全衛生などの職場環境の悪化が増加している傾向でした。年代別でみると50～60歳代の比率が高い結果となりました。

対応者としては、女性委員会役員が中心となり、相談者からの問い合わせに対して、親身になり丁寧に対応していただきました。

### 対応していただいた女性委員会役員の皆様



# ～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現しよう～

## 2022平和行動 in 沖縄

6月23日(木)～6月25日(土)に平和4行動のスタートである「平和行動in沖縄～語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう～」が3年ぶりに全国から集まり開催されました。連合埼玉からは構成組織、地域協議会、女性委員会、青年委員会より20名が参加し、集会全体では800人規模の参加となりました。

6月23日の「連合2022平和オキナワ集会」では、「沖縄の施政権返還50年と日米地位協定」と題し、法政大学法学部教授の明田川 融氏より講演をいただきました。講演では、国土面積の0.6%にすぎない沖縄に米軍基地の70.6%が集中している基地問題についてや沖

縄返還後も沖縄県民が苦しんでいる基である日米地位協定の不備について講義があり、改めて様々な問題があると認識することができました。

6月24日のピース・フィールドワークでは、沖縄陸軍病院南風壕、ひめゆりの塔・資料館、旧海軍司令部壕などの戦跡を自らの目で確認し、肌で感じることで、77年前の戦争の惨劇と非人間性の実相を強く心に刻みました。

参加者全員でこの平和行動で目の当たりにした戦争の本質、そして実感した平和の大切さを広く伝えていきます。

1日目  
(6/23)

### ■連合2022平和オキナワ集会

と き 15:00～16:30  
場 所 那覇文化芸術劇場なはーと  
内 容 第1部  
沖縄の施政権返還50年と日米地位協定  
講師:明田川融氏  
(法政大学法学部政治学科教授)  
第2部 平和式典

2日目  
(6/24)

### ■ピース・フィールドワーク(連合群馬と合同行動)

内 容 南風原文化センター・沖縄陸軍病院南風壕→平和祈念公園→ひめゆりの塔・資料館→旧海軍司令部壕

星 仁 (UAゼンセン/ワタミメンバーズアライアンス)  
森田 和馬 (UAゼンセン/ココカラファインユニオン)  
三輪 泰裕 (UAゼンセン/ココカラファインユニオン)  
齊藤 稔 (UAゼンセン/ココカラファインユニオン)  
下條 友久 (電機連合/岩崎電気労働組合)  
海藤 雅之 (JAM埼玉/北川鉄工所労組大宮支部)  
後藤 翔太 (情報労連/新和ユニオン)  
岡 晃生 (情報労連/新和ユニオン)  
野村 弘行 (運輸労連/日通埼玉運輸労働組合)  
平田 尚哉 (運輸労連/日通埼玉運輸労働組合)  
浅見 文秀 (さいたま市地域協議会/全農林労働組合埼玉分会)

川口 明紀 (川口・戸田・蕨地域協議会/OKIソフトウェアユニオン)  
中嶋 治 (県央地域協議会/UDトラック労働組合)  
中山 格臣 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/八木橋労働組合)  
長野 加奈 (本庄・児玉郡市地域協議会/DOWAハイテック労働組合)  
関根 誠 (本庄・児玉郡市地域協議会/DOWAハイテック労働組合)  
根岸 大樹 (秩父地域協議会/秩父鉄道労働組合)  
藤井 久恵 (女性委員会/政労連)  
金木 優 (青年委員会/JP労組埼玉連協)  
柿沼 聡 (連合埼玉副事務局長)

### ①平和行動に参加したのは何回目ですか？

### ②感想

①初めて

②沖縄の戦争については、唯一地上戦がおこなわれたという事しか知らず恥ずかしくなりました。これほど現地の方が苦勞をされたとは知りませんでした。また、何故に6/23に沖縄で平和の集会が行われるのかも知ることができました。今回学んだことは、戦争は兵士のみならず、一般の方に大きな犠牲を強いるということです。報道されない悲惨な状況があります。現在、ウクライナでも同様の事があるのだろうと改めて戦争を起こしてはいけないと思いました。



星 仁

①初めて

②「連合平和行動in沖縄」に参加し戦争の恐ろしさと基地問題について深く考えさせられました。戦争の恐ろしさは戦跡や記録を実際に見ることにより自分の中に記憶として深く刻まれました。中でも南風原陸軍病院の記録は「地獄」としか言いようがない程只々恐ろしく、そのようなことがあったとは信じ難い内容でした。戦後77年が経過し戦争経験者が減っていく中、このような「現実にあったこと」を伝えることが益々難しくなっていると感じます。だからこそ、この平和行動に参加した者としての使命だと考えこれからの行動を変えていきます。平和を願うのであれば知るべきことがたくさんあります。だけど知らないことが多く自分の至らなさを感じました。



森田和馬

## ①初めて

②戦争は悲惨、戦争はしてはいけない。今回の平和行動で悲惨な歴史を目の当たりにして誰もがそう思われたはず。歴史を語り継ぎ、戦争を風化させないことは非常に重要です。一人でも多くの人に学んだことを伝えていくのは私たちの責務です。日本は平和であるという概念を捨て、歴史を学びましょう。歴史にはトラブルを解決するヒントがあります。そして皆で議論し、本当に平和な日本、地球にしていましょ！組合活動も国づくりもまずは自分が動かないと何も変わりません。みなさん率先垂範です！



三輪泰裕

## ①2回目

②沖縄戦については知識としては知っていたが、実際に現地を見て、体験談を聞くことで、凄惨さを肌で感じる事ができた。地上戦が展開されたので、何の罪のない一般市民が、想像を絶する過酷な状況にさらされ、戦争に駆り出され、多くの犠牲者が出ている。このようなことは、二度と繰り返してはならないと思った。沖縄が返還されてから50年経過しているが、基地負担や地位協定など、未だ解決していない問題が多い。戦争体験者の高齢化により直接話を聞くことが困難となってきたので、戦争の悲惨さ、命の尊さについて、後世に伝えていかなければならないと強く感じた。



下條友久

## ①2回目

②天候にも恵まれ私にとって大変貴重で忘れられないものとなりました。今回の行動をとおして強く実感したことは、生命の尊さ、命を繋ぐという義務、そして何より今ある自分自身の命を大切にすることを感じさせていただきました。



後藤翔太

## ①初めて

②メディアをつうじて、基地の問題等、現在の沖縄に触れる機会が多いですが、平和四行動の中で歴史についても学ばなければいけないと感じました。慰霊の日という重要な日に戦争についてたくさんのお話を聞かせていただき、くり返してはいけないことだと改めて実感しました。この経験を胸に今後も命の大切さについて、考えたいと思います。



岡 晃生

## ①2回目

②平和行動に参加し、戦争について改めて深く考えるきっかけをいただきました。戦争は人を豹変させ、闇ともいえる洗脳状態に追い込み、常識すら変えてしまう大変恐ろしいことである。講話や戦争跡地を見聞し、目をそむけなくなるような日常がそこにあったかと思うと、二度と戦争を起こしてはいけないという思いを次世代に伝え続けなくてはならないと強く思いました。今の時代にこの国で平和な日常を送れている事がどれだけ幸せな事なのかを改めて実感させられました。一人でも多くの人々が、未来を奪われない平和な人生を送れることを願います。



平田直哉

## ①初めて

②沖縄戦の知識もあまりなく素直な気持ちで見聞させていただきました。訪問する所、全てで強く感じたが、地上戦での戦い、民間人も巻き込んでしまったことによる人々の苦しみ、悲痛、悲しみを肌で知りました。この体験は直接見て聞いて感じることでできるものだと思います。戦争をしないことだけでなく、戦争をさせない努力も声を上げ続けていきます。



齊藤 稔

## ①初めて

②沖縄戦については教科書の中でも学んできたつもりでいたが、今回の平和行動をとおして、多くの人々のかけがえのない日常が失われてしまい、その傷跡もいまだに癒えていないことを肌で感じた。過去の沖縄戦や現在の基地問題について、遠い離島での出来事・問題としてとどめておかず、家族や身近な友人と今回学んだことや感じたことを共有し、平和や戦争について少しずつでも繰り返し話し合うことが平和行動に参加した者の務めだと感じ、またそうしていきたいと強く思った。



海藤雅之



ひめゆりの塔



平和オキナワ集会

## ①初めて

②沖縄で戦争があったのは知ってはいたが詳しい内容はほとんど知らずあそこまで悲惨な出来事とは知りませんでした。その中でも私が一番脳裏に残ったのは、ひめゆり学徒の仕事、生活。壕での暗闇の中、ろくそくしかない状態での兵隊の看病や食事の世話、人糞の処理、麻酔がない中で手足を切断されて暴れている兵隊を抑える役目、切断された手足の処理。ウジ、ウミ、壕にこもる血や汗のにおい、想像しただけで気分が悪くなりました。このような体験をつうじて、今の我々にできることは戦争の事実を忘れずに職場の仲間や家族、友人へ伝えていくことだと思いました。



野村弘行

## ①2回目

②今回は沖縄戦についてしっかりと学習したために平和行動に参加させていただきました。何十年前前から米軍基地に関係する事件や事故をニュースで聞くたびに、私自身悲しい気持ちでいっぱいです。初めて訪れた南風原文化センターでは、当時の出来事について学ぶことができ、有意義な時間となりました。今後は平和行動をきっかけに日米地位協定を深く学んでいこうと思います。



浅見文秀

①初めて

②命は宝。自ら断ってはならず、他人の命も断ってはならない。バスガイドさんがおっしゃっていた言葉が今でも忘れられない。初めて平和行動に参加し、沖縄戦の悲惨さを資料館等をつづじて目のあたりにし、命の尊さを改めて認識した。最近ではロシアのウクライナ侵攻など、力で物事を解決する動きが出て来ているが、過去の大戦の歴史を今一度認識し、二度と戦争を起こしてはならないと強く意識した。良い経験ができた3日間であった。



川口明紀

①3回目

②各地の行動をとおして感じたのは、女性、子ども、高齢者が多く戦争に巻き込まれ、尊い命が奪われたことです。大戦で唯一地上戦があり、兵士、民間人、すべての方々が動員され、沖縄の人の悲しみが大きいことを実感しました。今の平和を続けるため、過去の歴史をしっかり学び、次世代へバトンタッチし、未来ある子ども達の芽を大切にしていきたい。



中山格臣

①初めて

②平和行動という活動に初めて参加させて頂きましたが、思っていたよりしっかりした活動で驚きました。私自身、初めての沖縄で楽しみもありましたが、戦時中の沖縄での出来事を学び、命の尊さや平和の大切さを改めて考えさせられました。今回学んだ事を職場でも伝え、平和への意識を高めていきたいと思っています。



関根 誠

①初めて

②平和オキナワ集会で、心に残る言葉は「見たこと・聞いたこと・感じたことを大切にしてください」でした。翌日、戦跡を巡りながら、77年前、私達と生きた時代が違っただけで、戦争の犠牲になった人々、沖縄戦の悲劇を繰り返させない。このことを再確認した平和行動でした。



藤井久恵

①初めて

②高校の修学旅行以来の沖縄であったが、当時とは知識、価値観も異なり、更には連日のようにロシアによるウクライナ侵攻の報道を見聞きする中で、第2次世界大戦での沖縄戦の実相に触れることで、改めて戦争は残忍であると感じると共に悲惨さを痛感した。戦争を起こすのは人間であるが、それ以上に戦争を起こさせない努力ができるのが私たち人間である。今回の平和行動参加を機に、平和に暮らし働けることの尊さを心に刻み、恒久平和の実現に向け、沖縄戦の歴史を風化させることなく、後世に語り継いでいくべく平和行動の担い手となり平和の意義を広げていきたい。



中嶋 治

①初めて

②戦争を経験したことがない私にとって、平和な日本というのは当たり前の日常で、戦争も昔の話という感覚でした。しかし、平和行動に参加して、平和は決して当たり前の日常ではない、戦争は絶対に起こしてはならないと強く思いました。戦争の悲惨さ、平和の尊さ、そして国を守り続ける難しさを感じた3日間でした。沖縄を見て、聞いて、知ったことを少しでも多くの人に伝えていきたいと思っています。



長野加奈

①初めて

②10数年ぶりの戦跡巡りでは、改めて命の尊さ、平和の大切さを実感しました。この命の尊さを子供たちに伝えていき、引き継いでいく事が平和へ繋がるのだと私は思います。機会があれば、他の平和行動にも参加し、平和運動を進めていきたいです。



根岸大樹

①初めて

②沖縄返還50周年の節目の年、青年委員会を代表して参加させていただきました。今、海の向こうの戦争が報じられています。77年前には日本でも同じことがありました。特に沖縄では地上戦により、多くの青年が犠牲になりました。今は貴重な観光資源がある、美しい海の向こうから戦争はやってきました。その無念さをひめゆりの塔祈念資料館に掲げられた遺影は無言で訴えてきます。



金木 優

## 既卒3年以内及び34歳以下の若年者の就職面接会を開催

### 埼玉労働局との共催

6月15日(水)大宮ソニックシティ地下展示場にて、埼玉労働局と共催の「既卒3年以内及び34歳以下の若年者の就職面接会を開催しました。当日は、79社の企業と181人の求職者が参加しました。高橋埼玉労働局長と近藤連合埼玉会長より挨拶があった後、面接会が開始となりました。面接会場では、採用・就職に向け各社のブースで熱心に企業説明や企業に対する質問がされていました。連合埼玉では、今後も若年者の就職支援に取り組んでいきます。



高橋局長



近藤会長

## 現在予定される8月の日程表です

8月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	月	埼玉労働局「令和4年度埼玉地方最低賃金審議会第3回本審」(14:00～・埼玉労働局)
2日	火	第9回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館)
3日	水	熊谷・深谷・寄居地域協議会「第4回幹事会」(18:15～・秩父鉄道労働組合)
4日	木	埼玉労働局「令和4年度埼玉地方最低賃金審議会第4回本審」(14:00～・埼玉労働局)
5日	金	平和行動in広島(～6日・広島市)
6日	土	埼玉労働局「令和4年度埼玉地方最低賃金審議会第5回本審」(14:00～・埼玉労働局)
7日	日	埼玉労働局「令和4年度埼玉地方最低賃金審議会(予備日)」(14:00～・埼玉労働局)
8日	月	組合役員教育プログラム・スキルアップ講座②(13:00～・WEB開催)
9日	火	
10日	水	
11日	木	
12日	金	
13日	土	夏期休暇
14日	日	
15日	月	
16日	火	
17日	水	
18日	木	本庄・児玉郡地域協議会「第4回幹事会」(18:30～・はにぼんプラザ)
19日	金	
20日	土	
21日	日	
22日	月	
23日	火	埼玉労働局「令和4年度埼玉地方最低賃金審議会(意義審)」(9:30～・埼玉労働局)
24日	水	県央地域協議会「第7回幹事会」(18:30～・UDトラックス労働組合)
25日	木	第3回ライフサポートステーション運営委員会(15:00～・あけぼのビル)
26日	金	青年委員会「第8回幹事会」(18:00～・連合埼玉会議室)
27日	土	
28日	日	
29日	月	関東ブロック「2022地域協議会活動推進会議」(14:00～・ホテルテラス・ザ・ガーデン水戸)
30日	火	女性委員会「第7回幹事会」(18:30～・WEB開催)
31日	水	さいたま地域協議会「第6回幹事会」(18:30～・浦和コミュニティーセンター)

ずっとくらしのなかに

50th

## 埼玉県生活協同組合連合会は 14の生協が加盟する生協の連合会です

埼玉県生活協同組合連合会は、県内の生活協同組合によって、よりよいくらしを実現していくために設立され、ここに50周年を迎えることができました。

「安心してくらし続けられる地域(埼玉)」と「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向けて、多主体協働による連携を進めていくことが当会の役割であると考えています。助け合いの組織である生協として、これからも「ずっとくらしのなかに」あり続け、地域にとってなくてはならない存在となるよう、より一層努力してまいります。

会員生協 14生協

会員組合員数 230万人

\*コープデリ連合会除く

会員事業高 1,959億円

\*埼玉労済生協、コープデリ連合会除く

\*\*いずれも2021年度末

地域生協(コープみらい、パルシステム埼玉、生活クラブ生協)

医療生協(医療生協さいたま)

各種生協(埼玉勤労者生協、埼玉労済生協、さいたま住宅生協、生協・さいたま高齢協)

大学生協(埼玉大学生協、跡見学園女子大学生協、大東文化学園生協、十文字学園生協、淑徳大学みずほ台生協)

連合会(コープデリ連合会)

CO-OP 埼玉県生活協同組合連合会





### <はじめに>

第26回参議院議員選挙を終え、埼玉選挙区では2名の推薦候補者を擁立して、両名の当選を果たしました。一方、全国比例の各構成組織で擁立した9名の推薦候補者については、8名当選、1名落選という厳しい結果となりました。

改めて、各構成組織ならびに各地域協議会の皆さまには、ご支援・ご協力に感謝申し上げます。

さて、今回の参議院議員選挙においては、多くの女性議員を選出すべく、全国で過去最高の181名の女性候補者が立候補して話題となりました。また、連合は「ジェンダー平等推進計画」フェーズIを確認しました。その後、各構成組織や地方連合会においても、それぞれの計画に着手し、連合埼玉においても、7月に開催した第8回執行委員会で確認しました。その「ジェンダー平等推進計画」の中から、キーワードを紐解きながら、「ジェンダー平等」について、考えてみたいと思います。

参考:連合ジェンダー平等・多様性推進  
<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/>

### <ポジティブ・アクション>

連合は、1989年の結成時より「労働運動をはじめ、あらゆる分野に女性の積極的な参加を進め、男女平等の社会の実現をはかる」と掲げ、これまで4次にわたって男女平等参画推進計画を策定して推進を進めてきました。

中でも、積極的な女性参画を押し進めることを「ポジティブ・アクション」と言います。一方で、女性だけを優遇すること自体が差別ではないか?という声もありますが、日本においては、1999年に改正された男女雇用機会均等法により、日本で初めてポジティブ・アクションを規定し、職場の男女間格差を是正するために事業主が女性を優遇することは、法令違反にはあたらないとされています。

### <ジェンダー平等>

今回の「ジェンダー平等推進計画」において、「男女平等推進計画」の名称を「ジェンダー平等」に改めています。

中には、男女平等の方針はどうなったのか?という声もありますが、男女平等への推進は、これまでどおりに推進をしていながら、身体的な性別だけではなく、性自認や「男らしい」「女らしい」の差別意識も含め、「ジェンダー」=「社会的性差」への平等社会の実現をめざしています。

また、国際的には、SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」という動きや、世界の潮流としても、「203050」であり、「2030年までに指導的立場の半分を女性に」への取り組みも背景にあります。

### <ジェンダー・バイアス>

連合の方針の中には、「ジェンダー・バイアス(社会的・文

化的な意味での性差に対する固定概念や偏見)」の意識の見直しがあります。例えば「家事は女性の仕事」や「医者」は男性の仕事」という固定概念や偏見のようなものです。

この他にも私たちの身近には、気づかないうちに潜んでいるジェンダー・バイアスが数多く存在します。このような固定的な性別役割分担意識の見直しが求められています。

また、世界経済フォーラムが各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数を公表しています。2021年度の報告によると、日本の総合スコアは0.656、順位は156か国中120位(前回は153か国中121位)でした。先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となっています。

### <クリティカル・マス>

クリティカル・マスは、集団の中でたとえ大多数でなくても、存在を無視できないグループになるための分岐点があり、それを超えたグループのことを示します。

例えば、女性の国会議員は衆議院議員で約10%、参議院議員で約20%という状況です。これでは、女性の立場を生かした法律や政策を実現しにくい状況です。こうした状況から抜け出すには、クリティカル・マスに基づき、女性の数を増やし影響力をもてるグループになることが必要になります。今回の「203050」の取り組みもクリティカル・マスの取り組みとなっています。



国立障害リハビリテーションセンターと  
アビリンピック埼玉会場の競技風景

### <アビリンピック>

皆さん「アビリンピック」をご存知でしょうか? 技能五輪に対して、「アビリティ(能力)」と「オリンピック」を合わせた、障がい者の技能を競い合うオリンピックになります。

先月、所沢市にある「国立障害リハビリテーションセンター」で埼玉大会が開催されました。様々な競技があり、例えば「パソコンデータ入力」「電子機器組立」「喫茶サービス」「ビルクリーニング」など、実際の現場作業が競技となっており、障がい者であることがわからないほど、競技レベルは高く、改めて感心を超えて感動を覚えました。

また、参加選手は、県内企業で雇用している障がい者や、当センターの生徒などが参加しており、選手の職場からの応援もあって、熱気にあふれる状況でした。少しずつアフターコロナへの取り組みが進む中で、テレワークなど働き方も変化しています。ジェンダー平等、障がい者の活躍など多様性を尊重した社会の実現への取り組みも重要となっています。

2022.7.15